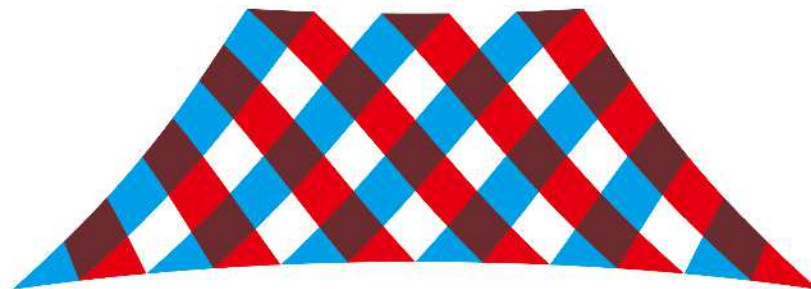


あなたとわくわく



マグマシティ

鹿児島市

令和7年度 福祉避難所実地訓練 実施報告

地域福祉課

実施報告の目的



福祉避難所実地訓練の実施において抽出された
開設・受入・避難者の支援など、
各局面において生じうる課題

共有

参加施設以外の他の福祉避難所施設等にも
フィードバックし、各施設における防災意識
の向上の一助となれば幸いです

福祉避難所とは・・・

災害救助法が適用されるような大規模災害時に、要配慮者（高齢者、障害者、妊産婦、難病患者など、避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする者）のうち、入院加療が必要なものを除き、一般の指定避難所での生活が困難な方を受入れるために設置される二次的な避難所

鹿児島市では、民間の高齢者福祉施設や障害者福祉施設、特別支援学校、看護学校等と福祉避難所の設置に関する協力協定を締結

訓練概要



今回の訓練は妊産婦福祉避難所の開設を想定し、
現地にて開設及び避難者の受入訓練を実施

実施日：令和8年3月17日

実施場所：鹿児島国際大学伊敷キャンパス
伊敷公民館

想定災害：鹿児島湾直下を震源とするマグニチュード
7.1の地震が発生（震度6弱を観測）

避難者：母親とその子ども（乳児）

訓練の目的



- ① 妊産婦福祉避難所の開設から受入までの手順の確認
(市福祉避難所マニュアルの検証)
- ② 市・妊産婦福祉避難所・関係機関における連絡体制
の検証
- ③ 開設・受入・避難者の支援など各局面において
生じうる妊産婦特有の課題の抽出


訓練参加者と役割



所属団体・部署名		今回の訓練での役割
鹿児島市	救助班	地域福祉課 ■企画、進行管理、市と施設との連絡調整 【参考】避難所（福祉避難所）の管理運営、被災者支援
		母子保健課 【参考】要配慮者への支援に関すること
	本部総括班	危機管理課 【参考】災害対応の統括、庁内や関係機関等との連絡調整
	保健所班	保健政策課 ■避難所の巡回による健康相談 【参考】被災地域の保健活動、医療関係者等との連絡調整
		西部保健センター
	輸送班	国民健康保険課 ■備蓄物資の輸送 【参考】物資等の輸送に関すること
避難所班	避難所班長・班員 ■各避難所の運営、救助班との連絡調整	
鹿児島国際大学伊敷キャンパス（看護学部）		■妊産婦福祉避難所の開設・避難者の受入
玉江地区民児協		■訓練の見学
県助産師会		■災害時の妊産婦への対応に関する講評 【参考】避難所等への災害支援ナースの派遣
西部保健センター保健師		■妊産婦避難者役

訓練の流れ


①市・施設との情報伝達



- ・R5改訂の市マニュアルに則り、LINEオープンチャットによる市と施設間の情報伝達


※電話回線の不通を想定

②一般避難所での避難者受け入れ





- ・発災直後（妊産婦福祉避難所開設前）の一般避難所での避難者受け入れ
- ・救助班との連絡調整

③妊産婦トリアージ




- ・保健所班の巡回による一般避難所での要配慮者の確認とトリアージ
- ・妊産婦が妊産婦福祉避難所へ移動

④避難スペースの確保・受入




- ・学校職員による受入スペースのレイアウト作成、ゾーニング
- ・妊産婦の受入
- ・健康観察や、移動の介助

⑤物資輸送



- ・施設からの要望に応じ、輸送班による輸送を実施
- ・パーティション、仮設トイレ等の組立使用

⑥意見交換会



- ・点検シートを作成し、反省点や問題点を意見交換
- ・市と協力協定を締結している県助産師会から、訓練結果について講評

① 市・施設との情報伝達

市救助班本部と各施設との連絡・情報共有は、原則、LINEオープンチャットを利用します

※個人情報取り扱い扱わない

災害発生

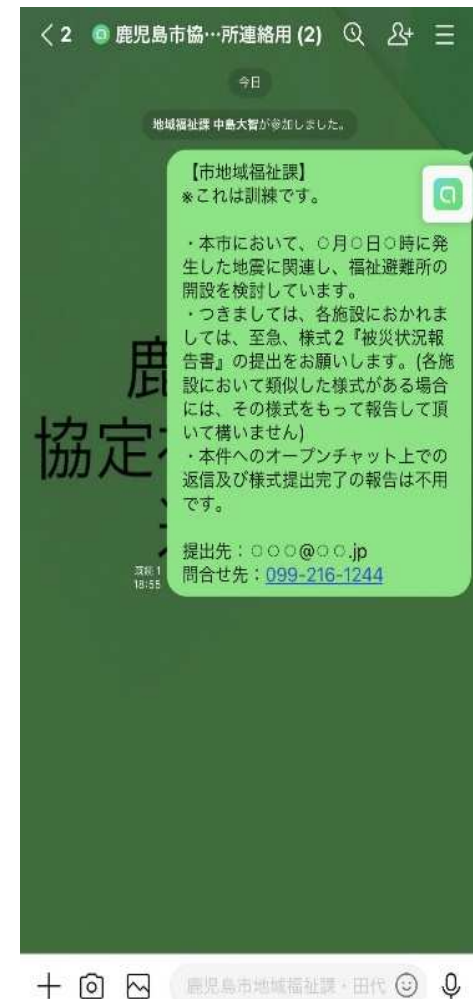
市) 施設へ安全点検を依頼



施設) 安全点検の実施
市へ点検結果の報告



市) 施設へ福祉避難所の開設を要請



① 市・施設との情報伝達

施設の安全点検のポイント

各施設の防災計画・BCP等に基づき、
施設利用者と職員の安全確保を最優先に。

安全確保後、直ちに施設の被害状況を確認。



施設確認の様子
兵庫県福祉避難所訓練マニュアルから引用

施設の安全点検 主な確認点

【施設周辺】

- ・ 近くで火災が発生していないか
- ・ ガス臭がしないか
- ・ 周辺道路は通行ができるか

【施設外観】

- ・ 建物が傾いていないか
- ・ 柱や壁面に亀裂・剥離はないか
- ・ 窓ガラスの破損はないか
- ・ 電気はつくか

① 市・施設との情報伝達



訓練後の検証



避難者の受け入れ要請などにおいて個人情報やメールで扱ったが、大学のセキュリティシステムによりタイムラグが発生することが分かった。（鹿児島国際大学）

市から受け入れ要請書が写真で送付されてきたが、不鮮明で見にくかった。（鹿児島国際大学）



課題の抽出

- ・ 停電や通信障害によりオープンチャットやメールなどが使用できない場合の連絡方法の検討
- ・ 市と施設間で共有する情報について、オープンチャットを使用するものと使用しないものの認識を強化することで発災時の混乱防止を図る

② 一般避難所での避難者受け入れ

福祉避難所は、市と施設の協議のうえ開設される二次的な避難所です。

発災直後の避難場所として一般避難所を開設し、受け入れを行います。

【受け入れにあたっての配慮点】

- ・ 受付（名簿記入） ⇒ 避難スペース誘導後、落ち着いてから
- ・ 健康状態の確認 ⇒ 乳児を含め、体調を定期的の確認
- ・ 配慮事項の聞き取り ⇒ 心配事の有無や授乳スペースなどの設置
- ・ 居室の割り当て ⇒ 可能であれば、人混みや騒音を避ける

など

受付後、市防災システムより避難者情報を救助班本部に報告

② 一般避難所での避難者受け入れ

訓練後の検証



一般避難所のパーティションを授乳スペースとしての活用も想定されている場合、背が低い。授乳スペース確保の際は背が高いパーティションの方が望ましい。（市保健所班）

パーティションを授乳スペースとしたときに、人が通るところだとパーティションがあるとはいえ、声が聞こえると安心して授乳ができないと感じた。（避難者）



課題の抽出

- ・ 授乳スペースとして対応が可能なパーティションの確保
- ・ 妊産婦が安心して生活ができるスペースの確保
（少なくとも、授乳やおむつ替えの際には、周囲の目を遮るなどの配慮が必要）

場面転換 発災2日目～

③妊産婦トリアージ

保健所班による避難所への巡回開始

避難者への聞き取りによる健康観察を行い、避難所職員と情報共有。共有された情報は、福祉避難所への移送が必要な場合を含め、救助班本部に報告（市防災システムから）

市は施設の被害状況や体制等を勘案し、施設とのマッチングを実施

受入可能施設に要配慮者の受入れを要請（併せて要配慮者の情報を提供）

避難所職員に受入施設を連絡（避難者は受入施設に避難）

③妊産婦トリアージ

保健師による健康観察



主な聞き取り事項

【母子共通】

- ・ 既往歴や現病歴
- ・ 内服薬
- ・ 避難所内で配慮してほしいことはないか
- ・ 不足物資はないか
- ・ 困っていることはないか

など

【母親】

- ・ 体調はどうか
- ・ 熱やだるさはないか
- ・ 食事や水分は取れているか
- ・ 眠れているか
- ・ 不安や気分の落ち込みなどないか

など

【乳児】

- ・ 夜眠れているか
- ・ 夜泣きはないか
- ・ 母乳やミルクは飲めているか
(飲む量は変わらないか)
- ・ 便や尿はでてきているか
- ・ オムツかぶれはないか
- ・ 発疹はないか

など

⇒避難所職員は保健所班から共有された情報を救助班本部に市防災システムにて報告

③妊産婦トリアージ



訓練後の検証



健康相談の際、自分の意見を伝えるのが難しい避難者もいると思うため、健康相談は「はい」・「いいえ」でこたえられるような形式がいいと感じた。（避難者）

トリアージの共通認識が必要で、対応する職員が変わっても同じ判断になるような基準をつくり、共通認識として持つことが重要。（市保健所班）



市防災システムを用いて健康相談票の写真データを救助班本部に送付する際、操作に不慣れで手間取った。（市避難所班）

課題の抽出

- ・ 妊産婦に対応した健康相談票の作成及び、トリアージを行う際の統一的な判断基準の整理・明確化
- ・ 職員に対するシステム操作方法の周知の実施、習熟度の向上

④避難スペースの確保・受入



開設要請を受けた施設は、要配慮者の避難スペースを確保します

- ・一人当たり概ね4㎡（畳2畳程度）を目安に
- ・パーティションなどの設置によるプライバシーの確保
- ・要配慮者情報を踏まえたレイアウト作成



避難スペース確保後、要請のあった避難者の受け入れを行います

- ・施設職員による健康観察や介助
- ・要配慮者からニーズ聞き取り⇒物資の配付・手配
- ・受け入れ後は、要配慮者受入リストを作成
(市への報告及び管理)

④避難スペースの確保・受入



訓練後の検証



3Fまで移動する際、国際大学のスタッフが段差の有無を教えてくれたり、荷物を持ってくれるなど安心して移動ができた。（避難者）

訓練に参加した赤ちゃんはおとなしく、おりこうさんだったが発災時は赤ちゃんも不安になるため、絵本とかおもちゃとかがあれば緊張を和らげることができる。（県助産師会）



課題の抽出

- ・今回は、施設が動線や受入スペースを事前に検討していたことからスムーズに対応できた。他の施設でも平時から受入時の想定に基づき、スペース等の検討・計画を行うことが重要
- ・エレベーターが使用できない場合の3Fまでの移送方法やベッドが使用できない場合の乳児用スペースの検討

⑤物資輸送



救助班本部は、施設から要請を受けた備蓄物資の運搬を輸送班に指示します。

※訓練では、食料品、飲料水、簡易トイレ、パーティション、乳児用ミルクなどの運搬を実施

輸送班は備蓄倉庫から必要物資の搬出・積込を行い、施設への運搬を開始します。



施設は受け取った物資の配付や避難スペース等への設置を行います。

併せて、追加で必要な物資や人員について協議を行います。

⑤物資輸送



訓練後の検証



輸送はスムーズにいったが災害時はより不安になることが想定される。平時から物資要請から輸送までの流れを確認しておく必要がある（市輸送班）

ミルクが輸送されてきたが、お湯を沸かす手段が見受けられなかった。妊産婦の支援においては、ポットやかセットコンロなどお湯の確保までを想定した物資要請が必要。（県助産師会）



課題の抽出

- ・ 実際の避難を想定した物資の備蓄や要請物資のリスト化
（例）哺乳瓶の洗浄に必要なもの：水、消毒液、ブラシ、消毒用容器、清潔な布、煮沸消毒用鍋 など
（※消毒液は市の備蓄あり）

⑥意見交換会



訓練終了後、参加者全員でそれぞれの局面での対応における課題や改善点について意見交換を行います。

意見交換の際は、運営訓練点検シートを用い、「開設」や「運営」、「要配慮者への対応」などの項目について5段階で評価し、意見や気づいた点などを発表します。

【運営訓練点検シート 主な評価項目】

○開設

- ・ 想定どおりに開設手順を進行できたか
- ・ 市及び各関係者との情報伝達が正確・迅速にできたか

○運営

- ・ 担当者間の連携が図れたか
- ・ 想定外の問題について対応が図れたか

○要配慮者への対応

- ・ 要配慮者へのニーズに応じた対応ができたか
- ・ 必要な設備や物資が適切に配置されていたか



など

⑥意見交換会



参加者からの主な意見や感想



これまでは情報伝達訓練のみであったが、実地訓練を行うことでマニュアル（市との連携に用いた様式の記入方法）の実効性の確認や、避難者の要望にどう応えるか等が体験できたため非常に良い経験となった。（鹿児島国際大学）

発災時に市が準備できる物資、妊産婦福祉避難所として最低限本学で準備が必要な物資を整理していきたい。（鹿児島国際大学）



健康相談する際、プライバシー確保のために設置してあったパーティションでプライバシーが守られたため非常に良かった。



健康相談の対応については相手に寄り添った優しい対応ができていたと思う。（市保健所班）

市職員間の連絡方法について整理が必要な面が見受けられた。（市輸送班）



【県助産師会からの講評】

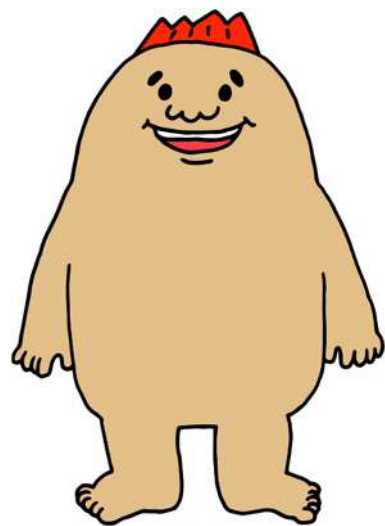


- ・ 訓練内容は練られていたが、エレベータが利用不可能など、想定を厳しくしてもよいのではと感じた。
- ・ 本訓練の目的は、マニュアルの検証と課題の抽出であったが、夏の暑い時期や物資が届かない等の想定をした訓練も必要だと思う。
- ・ 国際大学のスタッフは全員優しく声掛けができていた。
- ・ 居住スペースもトイレもだがゴミ箱が設置されていない。衛生的にもゴミ箱の設置は必要。手を洗えない場合はウェットティッシュを確保する等、清潔面の確保も避難所では重要だと考える。
- ・ 本訓練終了後も、人的支援に要請があった場合の対応訓練や平常時からの意見交換や情報共有を行っていく必要がある。

今後も訓練等を実施し、協定の実効性を
高めてまいります。

今回の訓練でご協力いただいた施設や関係者に
おかれましては、感謝申し上げます

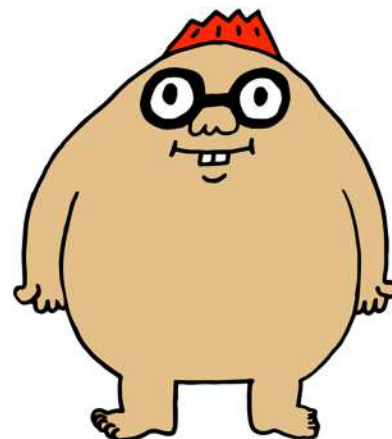
マグマシティPRキャラクター
火山の妖精マグニオン



リキニオン



マルニオン



メガニオン



ベビニオン

公式ページ

